



学校だより

令和元年8月30日
横浜市立権太坂小学校
9月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/gontazaka>



自然の中で遊び、子どもは育つ

学校長 野口 みか子

残暑お見舞い申し上げます

夏休みの終わりの頃から風が変わり、夏の終わりを感じさせられる季節になりました。学校に子どもたちの声に戻り、秋の活動が始まります。保護者の皆さんと共に子どもたちの安全な地域生活を夏休みにも見守り続けてくださった地域の方々、キッズの方々にお礼を申し上げます。おかげさまで、本校の子どもたちは、夏休みを元気に過ごし、一回り大きくなって学校に戻って参りました。

さて家族で過ごす夏休みはいかがでしたか？

私たち、学校の教職員の夏休みは学びの夏でした。子どもたちの心身の力を伸ばすためには、学習活動で何をしていくべきか、さまざまな視点から学びを深めました。特に来年度から全面実施になる新しい指導要領に沿った教育課程の学びは、今を生き、将来を生き抜く子どもたちに必要な資質能力を育てるために重要です。これまで権太坂小学校で大切にしてきた地域の方や幼稚園・保育園との連携を生かして、まちぐるみで将来を担う子どもたちを育てていくために、一緒に研修を行う機会をもちました。研修会では、講師をお招きして身近にある草花や木の実でいろいろな遊びをしたり、その遊びが子どもたちの脳をどのように育てるのかを講義から学んだりしました。

その中の一つを紹介します。ご存知の方がいらっしゃるかもしれません。

<クズのへび>

春から夏にかけて茂るクズ（葛）の直径1.5センチ位のツルを5センチ位の長さに切ります。そして、一方にシャボン液を付けて、もう一方から吹くのです。するとシャボン玉がへびの様につながってによりよると出てきます。ストローで吹き出すシャボン玉とは違います。

こうして、クズのへびを作って遊ぶことは、子どもたちの全身の感覚を様々に刺激し、働かせてくれます。クズのツルを手で触ると、その表面は複雑です。そして、一つとして同じものはありません。ストローは、人工的に作ったプラスチックで、内側も外側も表面はつるつるしていて単純で、みな同じです。そのため、触った時に働く感覚もぐんと少なくなります。そして、吹くとつながったシャボン玉が出てくるので、びっくりします。自然の不思議に声を上げて感動し、心を揺らし、「なぜだろう、ほかにもへびになるツルやクキはあるのかなあ」と考えを巡らせ、新たなことをやってみたいという好奇心を高めていきます。すると自らやってみたいと言う関心も自然に高まっていきます。そして、クズのツルと同じようなものは無いのかと探します。更にほかの草花や木の枝でも試していきます。これが、試行錯誤です。成功と失敗を繰り返しながら、草木・樹木のツルやクキ、枝の中の仕組みや構造を遊びながら理解していきます。さらには、その経験をもとに他のものの仕組みや構造を理解する力となって、複雑さや多様さを理解していくのです。自然の複雑性や多様性の中で、手足・全身を複雑に動かし脳に刺激を与えることで発達が促され、複雑性や多様性をもった人間への理解も、多様に、広く、深くできるようになっていくと考えられます。人間の脳は、子どもの時期に自然の中で「人間の脳として初期化する」ようにプログラミングされているそうです。ですから、身の回りの自然を生かして、遊んだり学習したりすることは、子どもの力を生かし伸ばす上で必要不可欠なことと言うことになります。

校内の草花や木の葉、木の実を使って遊んだり、友達と全身を思い切り動かして遊んだりして、権太坂小学校の子どもたちが大いに自分の力を伸ばしていけるよう、教育活動の計画を創り実施していきたいと思えます。引き続き新しい教育活動の実施にどうぞご理解・ご協力をお願いいたします。

千里の道も1歩から 4月、初めての朝会で、「千里の道も百歩から」という話をしました。そこで、子どもたちに「私は、平日1日8000歩を目指して努力を続けます。」と約束しました。夏休みに入る前にも休み中に続けることを約束し、歩みを進めることにしました。7月22日～8月21日までの平日22日間に歩いた歩数は、181,874歩でした。小さなことの積み重ね、あきらめないことを伝えたいと思っています。